

2023 年度事業報告

自：2023 年1月1日 ～ 至：2023 年 12 月 31 日

公益財団法人スペシャルオリンピックス日本

I. 基本方針

本年度は、アクションプラン 2021-2025 における、Be wit hall 事業の推進、持続可能な競技会・大会の取り組み、教育機関との連携等の重要施策を推進するとともに、世界大会への日本選手団派遣事業や、冬季ナショナルゲーム開催事業(フロア競技)を実施した。また、本年から新役員体制となり、来年創立 30 周年を迎える節目の年となることから、新役員体制や今後の事業構想を発表し、各ステークホルダーと共有・交流する機会を設け、更なるスペシャルオリンピックスムーブメントの促進を図った。

【SON のミッション、ビジョン】

<ミッション>

知的障害のある人たちに年間を通じて、オリンピック競技種目に準じた様々なスポーツトレーニングと競技の場を提供し、参加したアスリートが健康を増進し、勇気を奮い、喜びを感じ、家族や他のアスリートそして地域の人々と、才能や技能そして友情を分かち合う機会を継続的に提供すること。

<ビジョン>

スペシャルオリンピックス日本は、知的障害のある人々とのスポーツを通じた様々なユニファイド活動により、多くの気づきと行動を生み出します。

ステイトメント: 多様な人々が生きる社会の実現を目指す

スローガン: 「Be with all」

※本ビジョンを推進する事業を「Be with all 事業」と称する。

【アクションプラン 2021-2025】

①事業

<イノベーション事業>

- ・“Be with all”の普及促進
- ・ICT を活用した事業推進

<スポーツ事業>

- ・スポーツ活動の充実
- ・持続可能な競技会/大会の開催

②組織

- ・組織全体の適正なガバナンスの確保と最適な新組織体制の構築
- ・国内 SO 組織の再定義

③経営

- ・経営、財務資源の最適化
- ・人材マネジメント

Ⅱ. 競技会開催事業

1. 2024 年スペシャルオリンピックス日本冬季ナショナルゲーム

本大会は、アクションプランに基づく持続可能な競技会・大会開催に向けての取り組みとして、分散形式の開催とし、開催地の地区組織、自治体、関係団体等との連携を図りつつ、今後のナショナルゲームのモデルとなるような大会づくりをめざした。なお、氷上競技及び雪上競技については、2024 年 2 月に開催する。

■概要

大会名称：2024 年第 8 回スペシャルオリンピックス日本冬季ナショナルゲーム

(略称)スペシャルオリンピックス 2024 長野 / スペシャルオリンピックス 2024 北海道

開催期間：2023 年 11 月 18 日(土)～19 日(日) ※選手団は 11 月 17 日(金)入り

開催地：長野県長野市

会場：ホワイトリング(長野市真島総合スポーツアリーナ)

参加者：アスリート：199 名、パートナー：26 名、選手団役員・コーチ等 106 名、
大会役員・審判等：70 名、ボランティア：182 名

実施競技：2 競技 / フロアホッケー、フロアボール(ユニファイドスポーツ®)※フロアボールは初開催

2. 2026 年第 9 回スペシャルオリンピックス日本夏季ナショナルゲームの検討ならびに開催準備

2026 年夏季ナショナルゲームの開催方針について、2024 年冬季ナショナルゲームの方針を継続することを決定し、開催会場、開催競技等の検討を行った。

Ⅲ. 国際大会への代表選手団の派遣事業

1. 2023 年スペシャルオリンピックス夏季世界大会・ベルリン 派遣

ドイツ連邦共和国のベルリンで 2023 年スペシャルオリンピックス夏季世界大会が開催され、

日本選手団 73 名を派遣した。また、国内での事前活動を実施した。

なお、本事業についてはスポーツ庁の国庫補助金事業として、公益財団法人日本パラスポーツ協会より受託した事業である。

派遣期間：6 月 13 日～25 日

- ホストタウンプログラム：13 日～14 日 / 開会式：17 日 / 閉会式：25 日

開催地：ドイツ連邦共和国(ベルリン)

選手団：73 名(アスリート 35 名 / パートナー 10 名 / コーチ 20 名 / 団長 1 名 / 副団長 1 名 /
メディカルスタッフ 4 名 / スタッフ 2 名)

出場競技：9 競技に参加

競技結果：日本選手団競技結果

金メダル 8 / 銀メダル 8 / 銅メダル 10 /

4 位入賞 7 / 5 位入賞 1 / 6 位入賞 0 / 7 位入賞 1 / 8 位入賞 1

大会規模：176 の国と地域

- アスリート・ユニファイドパートナー 6,500 名 / コーチ 3,000 名 /

ボランティア 18,000 名(126 か国から参加) / ファミリー 9,000 名

26 競技を実施

事前活動：

日程	選手団活動	開催地
1月7日(土)～9日(月)	合宿①	東京都江東区
3月18日(土)～20日(月)	合宿②	愛知県豊田市、静岡県御殿場市
4月28日(金)～30日(日)	合宿③チーム競技	愛知県豊田市
5月13日(土)	コーチミーティング	オンライン

IV. 知的障害者の地域スポーツ活動振興の拠点となる地区組織等への支援事業

1. 新役員体制、事業構想発表会並びに 30 周年記念式典及び全国代表者会議の開催

本年は、役員改選による新体制がスタートとする節目の年でもあり、2024 年に創立 30 周年を迎えることから、幅広いステークホルダーの皆さまにご参加いただき、創立 30 周年記念式典を開催した。

また、地区連絡協議会、事務局長全国会議(分科会)、スポーツプログラム委員会全国会議をオンラインで開催し、これらの会議を通じて、SON の事業方針等を地区組織に共有するとともに地区組織との意見交換を行う場として実施した。

<新役員体制、事業構想発表会並びに 30 周年記念式典>

日時:2023 年 3 月 26 日(日) 13:00～17:00

会場:ヒルトン東京お台場 (東京都港区台場 1-9-1)

内容:事業構想、新役員体制の発表、30 周年記念

対象:地区組織、パートナー企業・団体、教育機関並びに関係団体等

参加者数:237 名

<全国代表者会議(地区連絡協議会、事務局長全国会議、スポーツプログラム委員会全国会議)>

日程 : 2023 年 4 月 22 日(土)

参加者 : 地区連絡協議会 116 名

事務局長全国会議(分科会) 78 名

スポーツプログラム委員会全国会議 116 名

開催形式 : オンライン

2. 地区組織の認定及び更新

各地区組織から提出された 2022 年度事業報告・決算報告、2023 年度事業計画・予算等の総会資料を精査するとともに、世界共通で行われているアスリート活動調査等の提出をもって地区組織の認定更新を行い、認証状を交付した。

参考:アスリート統計調査結果(前年)

アスリート:7,285 名(7,156 名) / ユニファイドパートナー:651 名(781 名)

ボランティア:10,072 名(4,673 名) / コーチ:4,599 名(4,586 名) / 大会・競技会数 213 回(115 回)

※詳細は SON ウェブサイトを参照 <https://www.son.or.jp/son-info/statistics/>

3. 地区組織強化支援、地区組織自己評価基準の運用

約 30 項目の評価基準で地区組織自らが組織の評価を行うことで、組織的な成熟度や活動の進達度を客観的に把握するために本年も自己評価を実施した。

また、自己評価基準の実施・運用にあたり、地区組織の活動の成果を称えることを目的として下記の通り地区組織を表彰した。

表彰の種類	地区組織	活動内容
きりり賞	SON・三重	若者の関わりを増やすことを目的とした複数の大学との協働事業の実施
チャレンジ賞	SON・岩手	ウィズコロナ時代の健康と交流の持続可能な取り組み
継続努力賞	SON・徳島	県内の小・中学校での NPO や障害者スポーツの理解を深める出張授業
	SON・北海道	プロスポーツチームやオリンピックとのイベント等を通じた認知向上

4. 地区委員会及びブロック幹事連絡会並びにブロック連絡協議会の開催

＜地区委員会及びブロック幹事連絡会＞

専門委員会の再編に伴い、全国 6 ブロックの代表者による「ブロック幹事連絡会」を新たに設置し、隔月でオンラインによる連絡会議を開催した。本連絡会は、SON と地区組織・ブロック間のコミュニケーションを図ることを目的としており、各回のテーマ及び時宜に即したトピック等を議題として意見交換や情報共有を行った。定期的なコミュニケーションの機会を通じ、SON と地区間のコンセンサスを図るとともに、ブロック代表者が理解を深めながらブロック内の地区組織への情報展開や共有に努めた。

＜ブロック連絡協議会＞

ブロック内の地区組織事務局及びスポーツプログラムに関する代表者が出席するブロック連絡協議会を、上半期、下半期の年 2 回オンラインで開催し、SON の事業方針や地区組織における課題などについて意見交換を行った。これにより SON と地区組織間のコミュニケーションを円滑にするとともに、実践に基づく現場の知識・ノウハウの共有が図られ、全国ネットワークにおける情報共有と地区組織の現場における活動推進力が強化された。

ブロック名	上半期ブロック会議	下半期ブロック会議
北海道・東北ブロック	4 月 22 日(土)	11 月 11 日(土)
関東ブロック		11 月 12 日(日)
東海・北信越ブロック		12 月 16 日(土)
近畿ブロック		11 月 4 日(土)
中国・四国ブロック		11 月 4 日(土)
九州・沖縄ブロック		12 月 3 日(日)

5. スポーツプログラム(SP)委員会及び競技部会活動

SP 正副委員長会議等の定期開催及び各競技部会による Dropbox 活用によるクラウドでの資料共有、メーリングリスト利用による情報共有の円滑化を進めることにより、国内スポーツ事業全般の普及推進を図った。

6. 助成

- 1) 地区競技会推進支援制度：本年は休止
- 2) 地域 SO 活動への特別助成：SON・愛知 500 万円、SON・北海道 250 万円

V. 知的障害者のスポーツ参加及び健康増進推進事業

1. ユニファイドスポーツ®

1) 令和の日本型学校体育構築支援事業(スポーツ庁委託事業)

ユニファイドスポーツ®の教育現場への普及の一環として、令和の日本型学校体育構築支援事業(スポーツ庁委託事業)に取り組んだ。本事業は「障害の有無にかかわらず共に学ぶ体育授業の充実」をテーマとして、長野県内の3つの小学校(特別支援学級、養護学校分教室児童を含む)においてフロアボールやSOのルール等を題材に実施した。

ユニファイドスポーツ®やSOの学びを通じて障害の有無や運動経験、技能の程度に関わらず、共に誰もがスポーツを楽しむことを経験し、「共生社会の実現」に向けた学びを深めることに繋げた。

学校名	日程・競技	実施時間	対象
長野市立緑ヶ丘小学校	8月24日～10月23日 フロアボール ※10月6日は学年集会にて講演会を実施	体育・総合的な学習の時間 (全14時間、一部オンライン)	5年1組:30名 5年2組:31名 5年3組:30名
長野市立川中島小学校	10月30日～12月20日 フロアボール ※11月9日は学年参観日にて講演会を実施	体育・総合的な学習の時間・国語 (全11時間、一部オンライン)	4年1組:29名 4年2組:29名 4年3組:30名
駒ヶ根市立中沢小学校	9月6日～26日 フロアボール	体育・総合的な学習の時間 (全11時間)	3年1組:11名 4年1組:12名 はなももの里分教室:10名

2) Unified Sports® ウェビナーシリーズ(活動報告会)

これまでSONや地区組織が取り組んできた、ユニファイドスポーツ®の活動を紹介し、アスリート、ユニファイドパートナー、コーチ等の経験者によるトークセッション形式のウェビナーをシリーズで開催することで、ユニファイドスポーツ®の認知・訴求を図った。

	日にち	テーマ	参加者数
第1回	8月28日(月)	Unified Sports®を通じた外部との連携とSO理解の普及	152名
第2回	9月24日(日)	世界でのUnified Sports®の取り組み	147名
第3回	10月20日(金)	Unified Sports®のプログラム運営	113名
第4回	12月12日(火)	第1部:2023年ベルリン世界大会での取り組み 第2部:日本でのユニファイドスポーツ活動の振り返り	121名

2. 多様なアスリートの参加促進

幼児期の子どもたちを対象にした、ヤングアスリートプログラムの訴求を図るため、体験会とコーチクリニックを実施した。

【ヤングアスリート(YA)体験会概要】

日時:12月10日(日)13:00～15:00

会場:帝京科学大学 千住キャンパス 7号館

参加者: 体験会:2歳～7歳子ども14名(うち8名は知的障害児)、保護者10名

コーチクリニック:21名

※ヤングアスリートプログラムとは

知的障害のある2歳半から7歳の幼児期の子ども達を対象にしたスポーツと遊びを融合させたユニークな活動です。

3. ヘルスケアの啓発と実践

スポーツウェルネス委員会を新設し、従来のヘルス分野に加え、メディカル分野の充実を図った。

また、ヘルシー・アスリート・プログラムの 1 部門である Medfest を実施し、アスリートの医療安全の充実を図った。

※ Medfest とは

HAP の1部門であり、メディカルフォームを基にスクリーニングを行い、アスリートやユニファイドパートナーがスポーツを安全に行えるかどうかの確認を行う。Medfest はアスリートやユニファイドパートナーの入会時のメディカルフォームおよび世界大会のエントリーフォームとしても採用されている。

●Medfest の実施

実施日	対象	参加人数
1 月 7 日(土) 世界大会・ベルリン ～ 8 日(日) 事前合宿	世界大会・ベルリンへ出場する アスリート及びパートナー	アスリート:34 名 パートナー:10 名
11 月 17 日(金) SO2024 長野大会	SO2024 長野大会へ出場する アスリート及びパートナー	アスリート:108 名 パートナー:8 名

4. 医療安全の充実

スポーツウェルネス委員会メディカル部会において、順天堂大学との連携協定に基づき、世界大会へのメディカルチームの帯同や、ナショナルゲームにおける救護活動等を通じ、大会時の医療・救護体制の構築・医療安全の充実を図った。

VI. ボランティア、指導者、審判員等育成事業

1. 指導者養成

ボランティアコーチの育成と既存トレーナーのレベル及びスキルアップを目的とし、各種研修事業を開催した。

- 1) オンラインコーチクリニック(ゼネラルオリエンテーション・アスリート理解) : 3 回開催 / 参加者 351 名
- 2) オンラインコーチクリニック(認定コーチ更新講習) : 4 回開催 / 参加者 378 名
- 3) オンラインコーチクリニック(ユニファイドスポーツ) : 3 回開催 / 参加者 96 名
- 4) コーチクリニック競技実技(対面) : 90 回開催(31 地区) / 参加者 1,243 名

※競技座学はオンデマンド(YouTube 動画視聴)で実施

2. スポーツプログラム委員会全国会議

各地区組織からスポーツプログラム委員会の代表者が参加し、SP 委員会体制と役割、コーチ研修制度の新制度の運用、競技部会の活動の推進、成果発表の場の拡充、新競技の導入について SON と地区組織における目標の共有と競技会運営等における課題解決に向けた取り組みについて、意見交換を行った。

日程:4 月 22 日(土) 会場: Web 会議システム

3. トレーナー養成講座

SO 活動の普及とコーチ育成を担うトレーナーと SON、またはトレーナー間の情報交換及びスキルアップを目的としてトレーナー養成講座を実施した。

開催日	内容	対象	参加人数
9 月 3 日(日)	・リフレクション研修 ・ファシリテーション研修	SON トレーナー	12 名

Ⅶ. 広報・啓発事業

Be with all 事業やナショナルゲーム開催事業、世界大会の派遣事業等様々な広報・啓発活動を通じて、スポーツの可能性や社会との連携の可能性を積極的に発信し、様々なステークホルダーを巻き込んだ活動を実施した。また、アスリートアンバサダーによる広報活動を実施した。

1. 広報・啓発

1) Be with all 事業における他団体・企業連携等

Bリーグや中京大学などとの連携イベント開催等による”Be with all 事業”を積極的に展開した。

① B.LEAGUE Hope との連携

・アルバルク東京 SO デー

4月15日(土)、Bリーグアルバルク東京の公式戦にて「Special Olympics Day」が行われ、世界大会に出場する女子バスケットボールチームが参加し SON ドリームサポーターの小塚崇彦氏、玉田圭司氏とともに大会 PR を行った。

【Challenge with ALL プロジェクトの取り組み】

- ・ 5月27日(土)日本生命 B.LEAGUE FINALS 2022-23 において「B.Hope ACTION Diversity & Inclusion supported by Sateraito Office」としてユニファイドスポーツ®バスケットボールチャレンジが行われ、下記の地区組織(※)からアスリート・コーチが参加し、Be with all の意義などについて PR した。
- ・ 9月15日(金)SON・愛知が、愛知県内 4 クラブとの連携を開始した。

＜Challenge with ALL の参加地区と B リーグのクラブチーム＞

SON 地区組織	B リーグクラブチーム
SON・北海道※	レバンガ北海道
SON・島根※	島根スサノオマジック
SON・沖縄※	琉球ゴールデンキングス
SON・京都※	京都ハンナリーズ
SON・愛知	三遠ネオフェニックス、シーホース三河、ファイティングイーグルス名古屋、名古屋ダイヤモンドドルフィンズ

② 中京大学との連携

2022 年、包括連携協定を締結した中京大学との連携事業の一環として、中京大学スポーツミュージアムにてスペシャルオリンピックス日本の企画展「スペシャルオリンピックス ～Be with all® だれもが活きる社会の実現へ～」を開催した。(開催期間:3月15日(水)～7月13日(木))

また、3月25日(土)、NPO 法人「体育とスポーツの図書館」主催、中京大学及び当法人共催による、第 11 回スポーツ文化シンポジウムを開催した。スポーツが多様性を尊重する社会の土台を築くことによりどのように貢献することができるのか、をテーマに、有森裕子ユニファイドスポーツアンバサダーが登壇し、スポーツの価値や世界的なスポーツイベントの存在意義について議論した。

③ 企業連携

・トヨタ自動車社 トークショーの実施

8月4日(金)全社員を対象としたトークショーを開催し、オンライン視聴を含め約 1,000 名が視聴した。

・エニタイムフィットネス社 ユニファイドトレーニングの実施

広島、熊本、北海道のエニタイムフィットネス店舗にて、店舗スタッフによるトレーニング指導を実施し、アスリートやファミリーとの交流を図った。

・エームサービス社 栄養指導講座の実施

世界大会・ベルリンの事前合宿において、管理栄養士による栄養指導を実施した。

- ・ 芸術花火との連携

全国各地で開催される芸術花火と連携し、「SON×芸術花火～地域の人と交流しながら花火をみよう！～」と題しイベントを実施した。

- ・ 名古屋グランパスとの連携

8月5日(土)名古屋グランパスのホームゲームにおいて、トークショー及びチアコラボパフォーマンスを実施し、SOの認知拡大を図った。

2) アスリートアンバサダー

アスリート自らが広報活動を行うアスリートアンバサダー事業として、毎月定例で、オンラインミーティングを実施し、テーマに合わせて自分の考えや経験を言葉で伝える練習や外部講師の指導による、話の聞き方や人への伝え方等について学び、実践の場としてSON主催イベント等において司会や発表を行った。

また、第2期アスリートアンバサダーが、映像制作会社とともに「SONアスリートアンバサダーが“伝える”スペシャルオリンピックス(SO) ～Be with all～」を制作し、SOの活動や魅力について自ら発信した。

3) 広報映像制作

① SON プロモーション映像のリニューアル

平岡新理事長の就任に伴い、SONプロモーション映像【Be a fan】をリニューアルした。

② Special Movie ALIVE #1

障害の有無にかかわらず、それぞれの違いを理解し、社会とのつながりを創造していく新たな領域の取り組み「Be with all」を表現した、スペシャルムービー「Special Movie ALIVE #1」を制作した。

併せて、今後SOに関わるさまざまな人たちをフォーカスした「ALIVE」をシリーズ化することを決定した。

③ 事業構想コンセプト映像の制作

当法人のこれまでの歩みや今後の事業構想、描く未来について表現したコンセプト映像を制作し、30周年記念式典で発表し、ウェブサイトにて公開した。

4) 2024年第8回スペシャルオリンピックス日本冬季ナショナルゲームの大会広報活動

本大会の認知拡大を図るため、雪上競技が行われる北海道及びフロア競技並びに氷上競技が行われる長野県にて、大会開催記者発表を行った。

- ・ 4月20日(木) 記者発表(北海道)

- ・ 5月17日(水) 記者発表(長野)

また、ナショナルゲームの特設サイトを立ち上げ、大会概要やボランティア募集、競技スケジュールや結果、会場へのアクセス等、大会情報をわかりやすく発信した。

5) 2023年SO夏季世界大会・ベルリン特設サイト

SONの主力事業や注力している活動を分かりやすく情報提供することを目的として、SONナショナルパートナーである株式会社ビジネスアーキテクツからの支援により、公式ウェブサイトを更新した。

2. 資金調達(寄付・マーケティング)

Be with all事業を軸に、さまざまなユニファイド活動により多くの気づきと行動を生み出し、他団体やパートナー企業と「交流・相互理解・機会やサービスの提供」という価値を提供し今後につながる資金調達活動を実施した。

また、東京マラソン2023チャリティの寄付先団体として選定され、3月2日(木)～4日(土)は東京マラソンEXPO2023にてチャリティブースを出展し、3月5日(日)大会当日に走り終えたチャリティランナー向けのチャリティラウンジを設け、ホスピタリティ提供を行った。

3. 他団体との連携

1) 教育機関との連携

順天堂大学と連携協力に関する協定を締結し、スポーツ医科学やパラスポーツ及び特別支援教育の研究推進の分野等において連携を開始した。

また、東洋大学の SDGs アンバサダー(ダイバーシティグループ)の学生とのミーティングを実施し、交流を深めるとともに講演会、ユニファイド体験会等の企画検討を行った。

2) SO アジアパシフィックとの連携

11 月 2 日(木)～5 日(日)インドネシアで開催された、SO アジアパシフィックのリージョナルリーダーシップカンファレンスに役員、スポーツプログラム委員会委員、職員の 3 名が出席した。

対面での開催は 4 年ぶりとなり、コロナ禍での各国の状況や課題、今後の方針などについて情報共有が行われ、諸課題に関する様々な議論を行った。

3) 競技団体等との関係強化

日本パラスポーツ協会、日本フロアボール連盟、日本スポーツチア&ダンス連盟、日本テニス協会、など

4) その他

マンチェスター・シティ ヤングリーダートレーニング、ユニファイドフェスティバル

トレーナーやコーチ、ユニファイドパートナーへ向けてマンチェスター・シティのコーチによる講習会に参加した。

開催日	対象	参加人数
7 月 20 日(木)～ 21 日(金)	・ヤングリーダートレーニング SON トレーナー、コーチ、パートナー、学生 ・ユニファイドフェスティバル アスリート、一般参加者	80 名

VIII. 調査研究事業

<研究発表等>

日本生涯スポーツ学会第 25 回大会でのポスター発表

日程: 12 月 2 日(土)～3 日(日) ※ポスター発表は 12 月 2 日(土)

会場: 鹿屋体育大学(鹿児島県鹿屋市)

テーマ:『知的障害のある人となない人が共に行うスポーツを推進するための研究

～スペシャルオリンピックスのユニファイドスポーツ®の実態と課題～』

<調査等>

・ユニファイドスポーツ®実施状況、課題等に関する調査(全地区組織対象・オンライン調査)

※本調査の分析結果を上記学会大会にて報告

・地区組織の ICT 活用に関する実態調査(全地区組織対象・オンライン調査)

・30 周年記念調査報告書(2024 年発行予定)についての構成案検討

XI. 会議開催等

<評議員会>

定時評議員会 日時：3月16日(木)10:00～11:55 場所：リロの会議室 Forum S+西新橋※
※対面及びオンラインのハイブリッド開催

<理事会>

第1回理事会	日時：2月16日(木)	書面決議
第2回理事会	日時：2月24日(金)18:45～20:25	場所：リロの会議室 Forum S+西新橋※
第3回理事会	日時：3月16日(木)12:15～12:40	場所：リロの会議室 Forum S+西新橋※
第4回理事会	日時：5月25日(木)18:30～19:30	場所：SON 事務所※
第5回理事会	日時：8月2日(水)18:30～20:25	場所：SON 事務所※
第6回理事会	日時：10月19日(木)18:30～19:40	場所：SON 事務所※
第7回理事会	日時：12月21日(木)18:30～20:25	場所：SON 事務所※

※対面及びオンラインのハイブリッド開催

<評議員選定委員会>

評議員選定委員会 日時：2月18日(土)14:00～14:30 場所：SON 事務所※
評議員選定委員会 日時：9月6日(水)10:00～10:30 場所：SON 事務所※
※対面及びオンラインのハイブリッド開催

<専門委員会等>

・スポーツウェルネス委員会

Web 会議システムを使用して会議を開催した。

スポーツウェルネス委員会合同会議：6月6日(火)

メディカル部会：7月11日(火)、8月22日(火)、9月27日(水)、11月1日(水)

ヘルス部会：6月20日(火)、8月1日(火)

・スポーツプログラム委員会

Web 会議システムを使用して、スポーツプログラム委員会正副委員長会議を下記の日程で開催した。

1月28日(土)、5月27日(土)、7月22日(土)、12月8日(金)

・調査研究委員会

Web 会議システムを使用して、下記の日程で会議を開催した。

5月2日(火)、6月2日(金)、7月7日(金)、9月29日(金)、10月17日(火)、12月5日(火)

・HAP 委員会

※HAP 委員会は3月に廃止し、その機能を新設したスポーツウェルネス委員会ヘルス部会へ移行した。

・地区委員会

Web 会議システムを使用して、下記の日程で会議を開催した。

2月4日(土)

※地区委員会は3月に廃止し、その機能を新設したブロック幹事連絡会に移行した。

・ブロック幹事連絡会

Web 会議システムを使用して、下記の日程で会議を開催した。

5月27日(土)、7月13日(木)、9月21日(木)、11月8日(水)